

121 甲状腺原発の悪性リンパ腫における ^{201}Tl -chloride と ^{67}Ga -citrate シンチグラフィーの有用性 - 甲状腺未分化癌との比較 -

千賀 脩, 小林 克, 横沢 保, 代田廣志,
菅谷 昭, 宮川 信, 飯田 太 (信大・2外)

甲状腺原発の悪性リンパ腫は極めて稀な疾患で、甲状腺未分化癌とも類似しており、その術前診断は困難な場合が多い。今回われわれは教室の甲状腺原発の悪性リンパ腫15例のうち7例に ^{201}Tl シンチグラフィー、9例に ^{67}Ga シンチグラフィーを施行しその成績を未分化癌の4例と比較検討した。 ^{201}Tl では、悪性リンパ腫7例全例(100%)に陽性像を示し、未分化癌では4例中2例(50%)に陽性像を示した。この2例はいずれも多形細胞癌であり、他の2例(小細胞癌)では集積がみられなかった。一方、 ^{67}Ga では、悪性リンパ腫9例中7例(77.8%)に陽性像を示し、未分化癌の4例は全例(100%)陽性像を示した。この ^{67}Ga 陽性例はいずれも予後が悪く全例死亡している。またこれら核種は遠隔転移巣に対しても強い集積がみられた。以上より、 ^{201}Tl と ^{67}Ga シンチグラフィーの併用は両者の鑑別に対し有用であり、また遠隔転移巣の早期発見、放射線治療に際しての照射野の設定、治療効果の判定などにも有用であると考えられた。

122 副甲状腺腫瘍における ^{201}Tl シンチグラフィーの有用性 (^{201}Tl - $^{99\text{m}}\text{Tc}$ subtraction の評価)

宮川 信, 小林 克, 代田廣志, 千賀 脩,
菅谷 昭, 牧内正夫, 飯田 太 (信大・2外)
中西文子 (同大・放), 矢野今朝人, 丸山喜代次
酒井倫子 (同大・中放)

^{201}Tl が副甲状腺腫瘍に集積することが発見され、部位診断にすぐれた Isotope であることが判ってきた。われわれは19例の副甲状腺腫瘍に ^{201}Tl scanを施行し、17例に集積像を認めた。また、医用コンピューター処理を利用して甲状腺集積部の subtraction を行うことにより部位診断をより明確にすることができ、重量0.1gの副甲状腺腫の部位診断も可能になってきた。

さらに副甲状腺腫における ^{201}Tl の集積能を周辺他臓器と比較する目的で、腫瘍摘出の約30分前に ^{201}Tl を静注し、手術時摘出した副甲状腺組織、甲状腺組織、前頸筋に対してg当りの ^{201}Tl のCPMを測定し、同時に採血したg当りの血液のCPMの比で検討すると、副甲状腺腫組織は 48.02 ± 16.95 、甲状腺組織は 25.24 ± 12.21 、前頸筋は 3.42 ± 1.29 倍の集積を示した。以上のことより副甲状腺腫瘍に対して、 ^{201}Tl scanは有益な部位診断法であると考ええる。さらに ^{75}Se メチオニン scan との対比について検討した成績を述べる。